

**大手 裕子**(大阪成蹊大学芸術学部 教授)

いつも学生と共に、障がいのある皆さんと表現活動の場を共有し、制作に立ち合わせていただいています。そこでは最終形の作品よりも作者の心身の動きやその過程に最も魅かれることがしばしばです。今回は普段と異なり作品のみをじっくり見ることで逆にその作者や込められた思い、制作時の空気感までリアルに想像させていただくことができ、私にとって初めての心躍る経験でした。

**岡 泰正**(神戸市立小磯記念美術館・神戸ゆかりの美術館 館長)

描くこと造ることは、生きることだと審査をするたびに感じます。見る者が勇気づけられ、活気づけられ、とらわれなき独創性に新しい表現のヒントをもらったりします。今回の応募は、絵画作品がとくに充実していました。

書では「回」の文字が、ひととき秀逸で、挙げさせていただきました。芸術活動の前の自由と平等ということ強く思います。美術の教科書にない答えがいくつも提示されています。

**岸本 吉弘**(神戸大学国際人間科学部 教授)

多くの作品に表現としての伸びやかさや柔軟さ、そして挑戦などもあり、大変に楽しめる内容でした。技術や形式も重要ですが、それ以上に「描く・作る・書く＝楽しみ・こだわり」がある作品も多く、それが作品としての魅力的な表情や強さにもつながっていました。今後も失敗を恐れずに、楽しみ悩みながら創作を続けてください。

**服部 正**(甲南大学文学部人間科学科 教授)

絵画の部門が特に充実していたように見受けられました。じっくり時間をかけて取り組むとか、自分の描きたいと思うものを描く、普段の自分を少し超えようとトライする、そのような作品に力がこもるのではないのでしょうか。共同作品では、全体のデザインに参加者が奉仕するものよりは、参加者一人ひとりの個性の違いが表れているものに魅力を感じます。作者の率直な思いや何気ない日常など、作品を通じてその奥にいる作者と出会えたような気分になる作品を期待します。作品の題名については、作者自身が望んだもの、それを描いたことが明らかなものでなければ、無理に付けずに無題のままでもいいと思います。

**山崎 均**(神戸芸術工科大学芸術工学部 教授)

応募作品のなかには、ユニークな発想と喜びが感じられて、思わずはっとさせられるものがあつた。受賞作は個性的で制作への意欲に満ちていた。本展は制作の場面で気づかない魅力を発見し、自信を持ち、創作へのこだわりや関心を確認できる機会として、とても貴重で意義のある場所です。

私が審査員賞に選ばさせていただいた作品(「麒麟」)は、大胆な色彩と構図がとても印象的でした。